

2023/12/11 (月)

朝の礼拝

聖書 ルカによる福音書 1章 47-49b節 (新約聖書101頁)

わたしの霊は救い主である神を喜びたたえます。
身分の低い、この主のはしためにも
目を留めてくださったからです。
今から後、いつの世の人も
わたしを幸いな者と言うでしょう、
力ある方が、
わたしに偉大なことをなさいましたから。

身に余る恵み

いま、読んで頂いたのは「マニフィカート」と呼ばれる有名な箇所です。冒頭の「たたえます」のラテン語、“Magnificat”に由来しています。実は、バッハの時代にはプロテスタントの教会でも「マニフィカート」は歌われ（それもラテン語で）、バッハ自身も作曲しているのは有名です。今も夕の祈りで歌います。

「たたえます」は原語で「メガリューノー」 **μεγαλύνω** と言います。よく大きいサイズを「メガ」と言いますね。実は、「力ある方が、わたしに偉大なことをなさいましたから」(49節)にも同じ「メガ」が使われています。マリアに与えられた溢れる恵みにマリアの極まった喜びが一つになっています。

マリアは自分自身を「身分の低い、この主のはしためにも」と言っています。「はしため」とは「しもべ、奴隷」のことです。マリアはわたしに誇るものは何もありません。わたしは壊れやすい器、道具に過ぎませんが、あなたはわたしに慈しみのまなごしを注ぎ、大きな業をなさいましたと喜びたたえているのです。

私は学生の頃から毎週土曜の夕方、礼拝堂で祭壇のローソクの火を見つめ、目を閉じて過ぎた一週間をふり返り、晩祷（夕の礼拝）でマリアの讃歌を歌いました。今も礼拝堂で聖書の言葉を聴き、黙祷している時、自分自身の存在がどれほど小さく、助けられ、励まされ、身に余る恵みに包まれているのを感じます。

（しばらく黙祷しましょう）

慈しみ深い主よ、マリアは自分には価値がなく、卑しく、貧しい、そして蔑まれた者であったにもかかわらず、あなたが大きな業をなされたと驚き、喜びたたえています。どうかわたしたちも小さく、壊れやすい器ですが、互いに赦し、愛し、励まし合い、あなたの平和の器としてください。今日一日もすべてをあなたに委ね、喜びと感謝のうちに過ごさせてください。主イエス・キリストによってお願いいたします。アーメン